

始まる

集まる

広がる

再生にウザあり!

「私たち元気です!」商店街

安全・安心なまちづくりのための取組編



【本パンフレットに関するお問い合わせ】

中小企業庁経営支援部商業課 Tel 03-3501-1929

経済産業省 中小企業庁経営支援部商業課

始まる 集まる 広がる 再生にウザあり！

「私たち元気です！」商店街

安心・安全なまちづくりのための取組編

目次 INDEX

ファイル 安全・安心なまちづくりのための取組

ファイル1 モール化をチャンスに進めた安全・安心な商店街づくり
溝ノ口駅前商店街モール化事業 P2-5
溝ノ口駅前商店街(神奈川県川崎市高津区)

ファイル2 住宅市街地総合整備事業による安全・安心への環境整備
昭和通り商店街整備事業 P6-9
昭和通り商店街(静岡県焼津市)

ファイル3 地域と一体になった安全・安心のまちづくり
AEDおよび防犯カメラの設置 P10-13
西町商店街協同組合(愛知県豊田市)

ファイル4 歩いて魅力が発見できるまちの実現を目指して
省エネ型アーケード改修事業 P14-17
寺町専門店会商店街振興組合(京都府京都市)

ファイル5 AED・防犯カメラなどの設置で元気で明るい商店街へ整備
AEDおよび防犯カメラの設置 P18-21
広島市胡町商店街振興組合(広島市中区胡町)



支援措置ガイド

■ 経済産業省

中小商業活力向上事業 P2、10、14、18

中小企業庁 経営支援部 商業課 TEL:03-3501-1929 (直通)

北海道経済産業局 産業部 流通産業課 商業振興室 TEL:011-738-3236 (直通)

東北経済産業局 産業部 商業・流通サービス産業課 TEL:022-263-1194 (直通)

関東経済産業局 産業振興部 流通・サービス産業課 商業振興室 TEL:048-600-0316~8 (直通)

中部経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 商業振興室 TEL:052-951-0597 (直通)

近畿経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 TEL:06-6966-6025 (直通)

中国経済産業局 産業部 産業振興課 流通・サービス・商業室 TEL:082-224-5653 (直通)

四国経済産業局 産業部 商業・流通・サービス産業課 TEL:087-811-8524 (直通)

九州経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 商業振興室 TEL:092-482-5456 (直通)

内閣府 沖縄総合事務局 経済産業部 商務通商課 TEL:098-866-1731 (直通)

■ 国土交通省

住宅市街地総合整備事業 P6

住宅局 市街地建築課 市街地住宅整備室 TEL:03-5253-8517 (直通)

住宅・建築物耐震改修等事業 P6

住宅局 市街地建築課 市街地住宅整備室 TEL:03-5253-8517 (直通)

→溝ノ口駅前商店街（神奈川県川崎市高津区）

溝ノ口駅前商店街モール化事業 モール化をチャンスに進めた安全・安心な商店街づくり

「ゆっくり、のんびりと楽しんでもらえるまち・みち」を事業コンセプトに、安全で快適な買い物環境を創出。

活用できる支援措置

中小商業活力向上事業（経済産業省）

商店街振興組合等が一体となって行う、少子高齢化への対応や安全・安心なまちづくり、商店街の生産性向上等の全国的課題に対応する商業活性化の取組に対して支援を行い、商店街等ににぎわいを創出し活性化を図ることを目的とした補助事業。
（※本事例当時は「少子高齢化等対応中小商業活性化事業」（平成18年度））

商店街を取り巻く環境

溝ノ口は、JR南武線武蔵溝ノ口駅と東急田園都市線溝ノ口駅が近接し、川崎駅まで乗車時間約20分、渋谷駅までの乗車時間約15分（急行）と通勤至便な環境にある。また、両駅をあわせた1日の乗降客数は約26万人と神奈川県第7位（平成16年）である。こうしたことからマンション建設などの宅地開発が進行し、商圏内人口は増加傾向にある。駅周辺の年間販売額は川崎市内有数の規模であり、多くの人が集まる商業拠点となっている。

しかし、このような恵まれた条件を備えた地域でありながら、歩車道分離もなされず、また駐輪する自転車が歩行の妨げになるなど、歩きにくく事故のおそれもある商店街であった。平成15年度に実施した来街者アンケートにおいても、駅周辺の街や商店街に対する要望として、回答者295名のうち約30%の人が「街路を整備して歩きやすい街にしてほしい」という項目を選択した。また、地域住民を集めてのワークショップにおいても、「ふれあいある、暖かな街づくり」を目指した道づくりが要望されていた。このような背景のもと、本事業が実施された。

PROBLEM → SOLUTION（抱えていた問題と解決への道）



KEY WORD（活用のKEY）

誰もが街歩きを楽しめる環境づくり

夜間でも安心な歩行環境づくり

犯罪抑止効果を高める取り組み



事例の概要

安全・安心な街づくりのために活用された支援措置

溝ノ口駅前商店街振興組合では、平成11年に理事会内にモール化委員会を組織し、北口の街づくりにおける街路整備計画の策定を行ってきた。同時期、川崎市による電線地中化工事の計画が持ち上がっており、この事業と歩調を合わせ街路整備計画を実施する予定であったが、電線地中化工事計画の進捗が遅れたため街路整備計画も当初の想定よりも実施が遅れた。歩車道の分離がなされず、自転車の駐輪問題も存在する状況を高齢化社会の進展に照らし合わせてみると、高齢者や障害者が安心して街に出られる環境を整備することが求められた。

そこで、「ゆっくり、のんびりと楽しんでもらえるまち・みち」を事業コンセプトとして、「安心して買い物ができる安全なまちづくり」「人に優しいまち・みちづくり」「都会的で暖かみのある景観づくり」を目指した。実施にあたっては、中小商業活力向上事業（当時は「少子高齢化等対応中小商業活性化事業」（経済産業省））と「川崎市商店街づくり事業補助金」（川崎市）を活用した。
※川崎市商店街づくり事業補助金…川崎市…法人商店街が1億円以上の事業費で、アーケードやアーチ等を総合的に整備する事業に対し補助を行う支援措置。

1 安全なまちづくり

歩道と車道が一体的デザインの開放的な空間創出を目指した。具体的には、歩行者の安全を守るポラード（車止め）の設置、犯罪の抑止効果を目指した防犯カメラの再整備と緊急放送設備の設置、夜間も明るい街路灯整備などを行った。防犯カメラは、プライバシーの侵害にならぬよう十分に配慮しつつ、死角をつくらぬような配置を考慮し19台を設置した。また、犯罪抑止効果を高めるために高さ2.5mの位置に設置した。街路灯は夜間でも安全に歩けるような照度を保つとともに、足下灯を設置することによって、視力の弱まった高齢者などに対しても安心な歩行環境を確保した。

2 人に優しいまち・みちづくり

視覚障害者誘導ブロックの整備、バリアフリーの街路整備などを行った。これにより、高齢者や障害者、子ども連れの親子など、誰もが街歩きを楽しめる環境を創出した。舗装材は、すべりにくく、ハイヒールのかかかどがひっかかるといった危険性のない材質のものを使用した。こうした機能面に加え、デザイン面でも全体的に優しさと広がりを感じられるよう舗装材の色彩やパターンに配慮した。

3 都会的で暖かみのある景観づくり

美しく、繊細で透明感のあるデザインをコンセプトに、暖かみの感じられる素材、色彩、あかりの採用や都会的でシンプルなポイント景観づくりに配慮した。

4 愛称公募で親しみを広げる

モール化完成にあたり整備された通りの愛称を公募し、安全で快適な買い物環境を実現した商店街のメインストリートが「ポレポレ通り」（ポレポレは「ゆっくり」を表すスワヒリ語）と名付けられた。商店街全体を表す愛称は「ポレポレタウン」になった。



死角をつくらぬように配置された防犯カメラ。



防犯カメラは高さ2.5mの位置に設置された。



グレーで柱状のポラード（車止め）と、焦げ茶色で柱状の足下灯が設置された歩道。

Voice

溝ノ口駅前商店街振興組合 理事長 持田知介さん

今回の取り組みによって、歩車道は段差がない開放的な空間をつくることができました。また、ポラード（車止め）を設置し車両の進入を回避することで、安全な歩行空間を確保しました。おかげで、誰もが街歩きを楽しめる環境ができたと思います。来街者数はモール化前と後でおおむね10%増加し、効果があらわれています。来街者からは、「歩きやす

な」「夜間でも安心して歩ける」などの声が聞かれるようになり好評です。現在は買い物客が歩道に駐輪した自転車の整理を川崎市の支援措置を受け専門の整理員を置いて行っていますが、この措置は平成21年3月で終了します。自転車対策を行わないと歩行の大きな妨げとなるため、これに取り組むことが次の課題です。

歩きやすいメインストリートを整備することで、ゆっくり、のんびりと楽しめる街づくりを推進。

生まれ変わった駅前通り

溝ノ口駅前商店街は、駅前交差点から延びる東西の通りをメインストリート（約500m）として、南北約170mに広がる面的な区域。モール化事業では、駅前交差点から300mにわたるメインストリートについて、歩車道舗装やバリアフリー化、ポラード（車止め）・足下灯の設置、街路灯・防犯カメラの整備などを実施した。



モール化前のメインストリート。



モール化後のメインストリート（ポレポレ通り）。



現在の駅前交差点。左の通りがポレポレ通り。

コミュニケーションを深めるイベントをスタート

「ポレポレ通りモール化完成記念」イベントとして、大道芸人や中国雑技団がパフォーマンスを繰り広げる「大道芸まつり」を平成19年4月に開催し大いににぎわった。翌平成20年5月には第2回「大道芸まつり」を開催し、恒例化を図っている。これは、新しいモール空間を来街者とのコミュニケーションの場にしていこうという取り組みの一つである。



第1回「大道芸まつり」のにぎわい。



ポレポレ通りモール化完成を記念して開催された第1回「大道芸まつり」のパンフレット。



恒例となった第2回「大道芸まつり」のパンフレット。

商店街を彩るイルミネーション

平成19年11月には、初めてのイルミネーションを実施した。ポレポレ通りが美しく整備されたことにより、イルミネーションが商店街を明るく彩る高い効果を上げた。



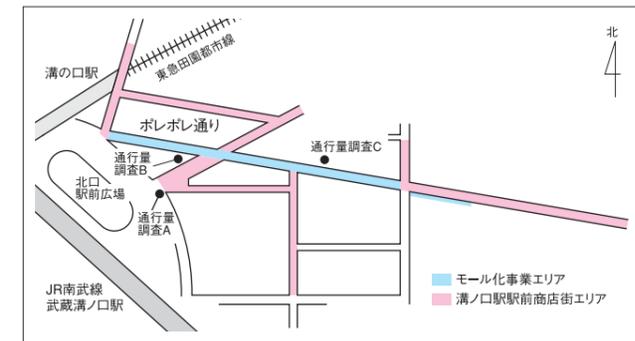
イルミネーション風景（ポレポレ通り内）。



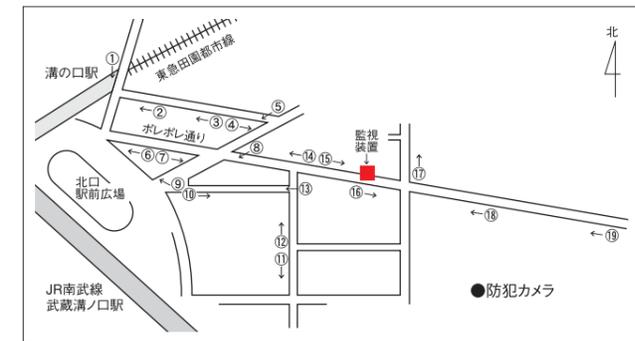
イルミネーション風景（東急口方向より）。

資料

■「溝ノ口駅前商店街」モール化事業エリア



■「溝ノ口駅前商店街」防犯カメラ配置図



■「溝ノ口駅前商店街」モール化前後の通行量



「溝ノ口駅前商店街モール化事業」概要

■モール化工事

ポレポレ通り（延長300m）のモール化を実施。

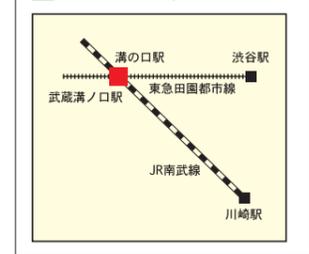
- ・歩車道舗装。
- ・ポラード（260基）、照明灯（48基）、足下灯（39基）、ゲート（4基）等の新設。

■放送設備・防犯カメラ

照明灯に付帯させる。

- ・放送設備（防水型スピーカー48セット）
- ・防犯カメラ（固定式カラーカメラ19台、デジタルレコーダー式）

■アクセスマップ



<川崎市高津区人口:212,529人(平成21年1月1日現在)>

問い合わせ 神奈川県川崎市高津区溝ノ口1-21-5 世紀コーポ5-A TEL:044-822-6277 溝ノ口駅前商店街振興組合 専務理事 五味秀二

→昭和通り商店街（静岡県焼津市）

昭和通り商店街整備事業

住宅市街地総合整備事業による
安全・安心への環境整備

大型スーパーとも共存共栄した、
水産業の町の中心商店街が、
安全・安心のまちに生まれ変わる。

活用できる支援措置

住宅市街地総合整備事業（国土交通省）

既成市街地において、快適な居住環境の創出、都市機能の更新、美しい市街地景観の形成、密集市街地の整備改善等を図るため、住宅等の整備、公共施設の整備等を総合的に行う事業。

住宅・建築物耐震改修等事業（国土交通省）

地震の際の住宅・建築物の倒壊等による被害の軽減を図るため、住宅・建築物の耐震性の向上に資する事業に対して補助金を交付する地方公共団体に対し、国が必要な助成を行う事業。

商店街を取り巻く環境

昭和34年にアーケードが設けられた昭和通り商店街は、地域・近隣住民はもとより、日本でも有数の漁業基地である焼津港に入港する水産業従事者によって活況を呈してきた。船員の滞在に加え、その家族なども他地域から訪れることもあり、日用・生活用品から飲食店、菓子店、衣料品、土産店などあらゆる業種が揃って賑わいをみせていた。また、大店法施行以前から商店街の周囲にすでに大型スーパーが二店舗あり、共存共栄する形で繁栄してきたことも全国的に珍しい特色である。しかし、水産業の衰退とアーケードの老朽化、モータリゼーションの進展による中心市街地の衰退とともに同商店街も衰退。焼津市では安全・安心のまちづくりを目指して、市街地の整備計画に踏み切った。密集市街地の整備等については、平成4年度の本町地区市街地総合再生計画の建設大臣（当時）承認を経て、国の補助事業により実施しているが、これまでに事業の統合・再編が行われ、平成16年度から住宅市街地総合整備事業として実施している。

PROBLEM → SOLUTION（抱えていた問題と解決への道）

塩害などによるアーケードの老朽・危険化

密集市街地における火災等の懸念

水産業衰退、モータリゼーションへの対応

あらゆる人が安全・安心に暮らせて、
車社会にも対応した
新たな商店街へのシフト。

KEY WORD（活用のKEY）

アーケードを取り除き
歩道と車道を確保

人と車の両方が
共存できる
工夫をこらした商店街へ

公園などを計画し
地域住民に優しいまちに



住民がゆとりある散策ができるよう改修された昭和通り。

事例の概要

住宅が密集する市街地から 安全・安心をめざすゆとりのまちづくりへ

焼津市では、かねてより老朽住宅等が密集し、住環境及び都市防災上問題の多い中心市街地の改善が課題となっていた。市役所も立地する本町の昭和通りでは実際にアーケードの一部部品が風に飛ばされたり、火災も起きた。既成の密集市街地において、安全で快適な居住環境の創出、都市機能の更新、美しい市街地景観の形成を図るため、住宅等の建設、公共施設の整備等を総合的に行う目的で計画が始められ、昭和通りのアーケードの除却を前提として、道路も拡幅されることになった。

1 アーケードで栄えた商店街

道路整備のメインとなるのは、全長400mに及び昭和通り商店街であった。この商店街は、昭和の高度成長期に東海地区でも屈指の活況を見せ、名物となる商店も多く存在していた。しかし、海が近いことによるアーケードの著しい老朽化、周辺家屋の密集化、地域住民の高齢化、増加する車での来街者等の対策が課題となっていた。これらの課題に対応する安全な町とするために、市の整備計画の中でアーケードの除却を前提として、道路の拡幅・整備が行われることになった。商店街の中にはアーケードに愛着が強い店主なども多く、また地場の水産業の衰退や財政上の事情などから事業内容の再検討を行いながら進められた。

2 住民の居住環境を一新する整備計画

平成6年度に「本町地区コミュニティ住環境整備事業」の大臣承認を受けた整備計画の中で、対象地区を本町2丁目の一部、3,4,5丁目、北浜通、新屋、城之腰の一部で構成される32.7haの区域について整備を行うことになった。現在は、昭和通り沿線を中心とした本町2～5丁目の各一部の5.7haを重点整備地区として設定し、防災性の向上、魅力ある住環境整備を主な目的として、老朽建築物の除却と道路・公園等の地区公共施設の整備を行う住環境形成施設整備事業を実施している。

3 車でも来やすく、歩行者にも優しいまちに

アーケードを取り除き、拡幅された道路は歩道・車道ともに景観もよく（電線地中化もなされている）、明るい印象である。まず、車が停められる駐車スペースがユニークであり、そのスペースも歩道の幅が十分あるため、店舗の前をふさぐような形にはなっていない。また、交差点から車道への入り口を狭くすることで車が徐行するような誘導をしている。同時に歩行者には、歩きやすいバリアフリーの歩道となっており、車と歩行者が共存できる通りとなっている。また、公園が少ない地域のため、公園や緑地、高齢者が集えるポケットパークなども今後整備する計画である。

4 明るくなった商店街、課題は来街者のとりこみ

道路拡幅のための移転を機に、商店街から撤退した店もあるが、新たな店やこれまで商店街になかった店なども開店している。昨今、焼津駅付近に高層マンションなど新たな住宅が増えており、新たな住民の商店街への取り込みが今後の課題である。焼津市と昭和通り商店街などの地域住民がまちづくり協議会を結成して、商店街の発展のための新たな方策を模索しているところである。このほか地元商業者有志は、講師などを招いて新たなイベントなどソフト策強化を目指す。まずは大規模な集客よりも地域に密着したイベントを地道に、コンスタントに重ねていく方向である。



地元高齢者に「歩きやすくなった」と評判の歩道。



もうすぐ昭和通りすべての拡幅が完了する。



明るくて景観がよく、車と歩行者が共存できる環境である。

Voice

焼津昭和通り商店街 増田照正さん

昭和30-40年代は、水産業関係のお客様と地元客で土日には人の頭で向こうが見えない程繁盛した商店街でした。潮風の影響も強く、建設から20年経っていたこともあり（当時のアーケードは20年で老朽化するという目安があった）、昭和55年頃に老朽化が著しくなったことから除却計画が持ち上がりましたが、住民の全面賛成を得るこ

とができず立ち消えになりました。その後、平成10年頃になって、焼津市としての道路整備の計画が持ち上がり、火災が実際に起きたこともあることからアーケードを撤去、市の整備計画の一部として道路拡張を行うことになりました。また、昭和通りの一部の拡張が残されていますが、高齢化も進む地域として以前とは比較にならないほど安全な通りになっています。

景観が向上した昭和通りでは、住民、来街者に配慮したゆとりのまちづくりの工夫が至るところで見られる。昭和通りの道路拡張は今だ一部を残している状況ではあるが、整備部分の防災には問題がなく、歩道が歩きやすくなった、駐車場の確保がしやすくなったなどの声が届いている。

バリアフリー+αの歩道・車道

アーケードを取り除いて昭和通り商店街の道路を拡幅（従来の7mを12mに）した通りは、段差のないバリアフリーであり誰でも散策がしやすい。電線も地中化されており、各店舗が販促などに使えるよう、歩道から電源がとれる仕組みにもなっている。一方で、車道については歩行者に優しいように水はねがしにくい素材を使っている。車での来街者に対応する駐車帯の設置は全国でも珍しい。さらに、景観にも貢献する街路灯には、商店街の広報やBGMが流されているスピーカーが設けられているが、緊急時など市の公共放送や告知が割り込める工夫がなされている。



車での来街者に嬉しい駐車スペース。



交差点から侵入する車道の幅員が狭められている。車を自ずと徐行させる工夫である。



イベントの一環として、地域の方言を記した灯籠が展示された。

整備完了箇所

■昭和通り北側入口

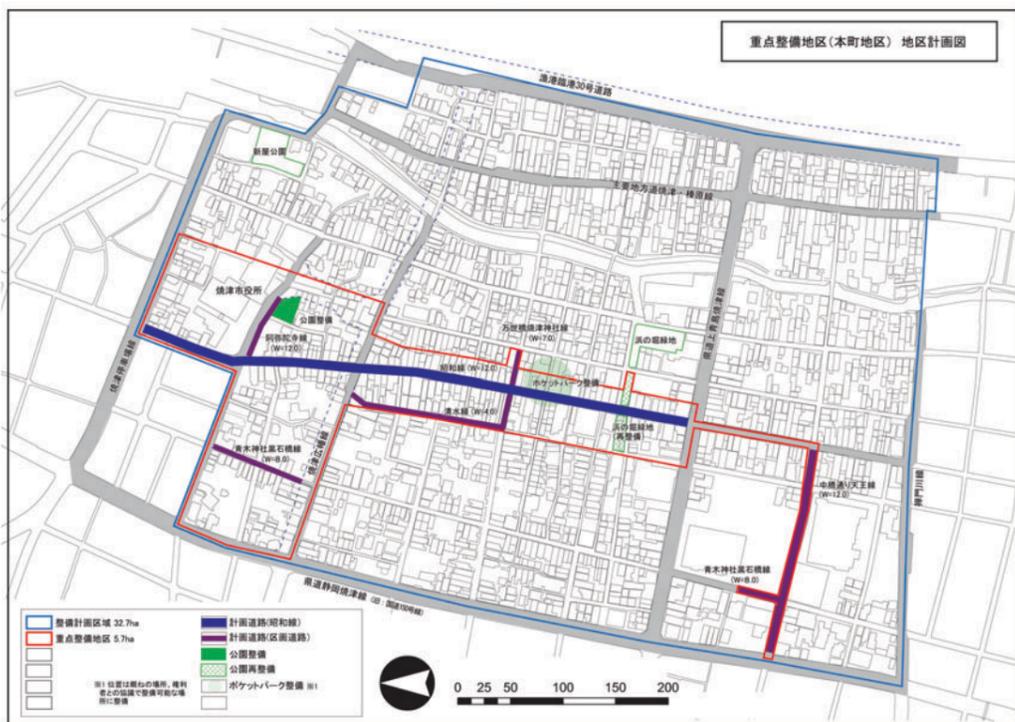


整備前



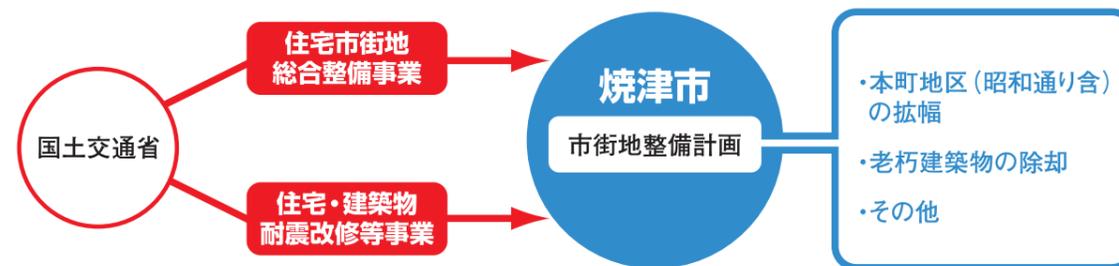
整備後

建物の移転が完了し、幅員12メートルのコミュニティ道路が整備され、電線等も地中化された。道路右手奥にある建物は、「優良建築物等整備事業」により建築されたもの。



資料

■事業の広がり支援措置の関係図



■重点整備地区事業計画(※可能な事例についてのみ記載)

	地区面積 (ha)	総事業費 (百万円)	総住戸数 (戸)	住戸密度 (戸/ha)	換算老朽住宅率 (%)
本町重点整備地区	5.70	5357	194	34	70

■中心市街地形成の沿革と基盤整備状況

江戸時代	・新田開発が進み、農業も盛んになる一方、河口港を利用した回船業が発達
明治22年	・町村制施行により近隣12か村が合併して焼津村となる ・東海道本線が開通し焼津駅が開設されると、それまでの海路中心の輸送が一変し、農水産物の商圏が拡大され、生産地として繁栄
明治34年	・町に昇格
昭和26年～	・焼津漁港の修築整備が開始され、以来、焼津漁港の拡充、外港建設、現在の第9次漁港整備計画による新港建設へと継続されている
昭和26年	・市制施行
昭和34年	・昭和通り名店街改装オープン
昭和56年	・空前の976億円の水揚げを擁するに至り、遠洋漁業の発達とともに水産加工業も著しく発展 ・駅裏・駅北工区の土地区画整理事業完成

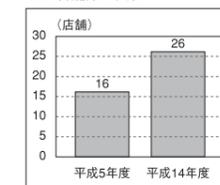
平成2年	・アトレ焼津(本町五丁目再開発ビル)完成
平成4年	・小石川「水辺プラン21 推進事業(第一工区)」完成
平成5年	・神武通り商店街基盤整備事業完成
平成6年	・コミュニティ住環境整備事業(現:住宅市街地総合整備事業)開始
平成7年	・アトレ焼津内に「ふれあいホール」オープン
平成12年	・栄地区コミュニティゾーン形成事業完成
平成13年	・駅前通りの電線共同溝整備事業(一方通行化、電線地中化)完成 ・昭和通りのアーケード撤去
平成15年	・JR焼津駅南口広場整備事業完成

■平成14年頃の中心市街地商店街の状況

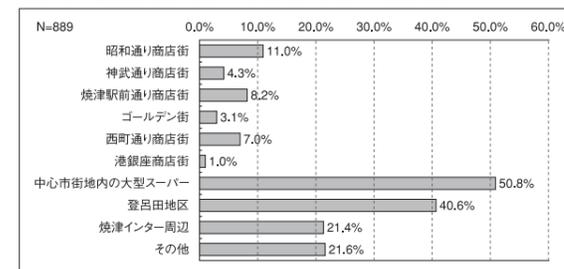
中心市街地の商店街の状況としては、主に6つの商店街組織があり、JR焼津駅北側には西町通り商店街が1つ形成されているのみで、その他はJR焼津駅南側と焼津漁港の間に形成されている。

平成14年9月時点の中心市街地商店街の店舗数は320店舗で、個人営業・生業的な店が多く、最寄り品中心の商店街になっていた。また、商店街経営者の年齢層は高く、近年では後継者のいない商店が多くなっており、空き店舗が増加していた。

中心市街地商店街の空き店舗数の変化



焼津市民の買物動向[資料:焼津市中心市街地活性化に関する市民意向調査(H13)]



■アクセスマップ



<焼津市人口:120,354人(平成20年10月31日現在)>

問い合わせ 焼津市本町2-16-32 TEL:054-626-2166 焼津市都市住宅部都市整備課
焼津市本町2-16-32 TEL:054-626-2155 焼津市経済部商工観光課

→西町商店街協同組合（愛知県豊田市）

AEDおよび防犯カメラの設置

地域と一体になった
安全・安心のまちづくり

安全・安心で暮らしやすいまち、
三世代のコミュニティ創出をめざして、
地域の元気商店街が地域力向上へ貢献。

活用できる支援措置

中小商業活力向上事業（経済産業省）

商店街振興組合等が一体となって行う、少子高齢化への対応や安全・安心なまちづくり、商店街の生産性向上等の全国的課題に対応する商業活性化の取組に対して支援を行い、商店街等ににぎわいを創出し活性化を図ることを目的とした補助事業。
（※本事例当時は「少子高齢化等対応中小商業活性化事業」（平成18年度））

商店街を取り巻く環境

「豊田市」と聞くと、「元気な街」という印象を抱く人が多いだろう。平成17年の大合併により市域が拡大、人口も42万人に達し、豊橋市をぬいて県下第2位となった中核市である。一方で、全市の人口は増えたものの、中心市街地の人口は、昭和40年代のピーク時に比べて、2/3程度に減少、高齢化率も市平均を上回っている。中心市街地の商店街の衰退も著しく、商店数はピーク時（平成3年）の2/3、販売額も1/3程度に減少している。市内最大の商店街として中心的な役割を果たしてきた西町商店街でも、後継者問題、高齢化問題、商業集積の不足、また、駅周辺でのモラルの低下などが浮上するにつれ、対策を講じる必要が生じてきた。同商店街では、商店街活性化のひとつの方策として、安全・安心のまちづくりを打ち出して、市・地域を巻き込んでの事業展開に取り組んだ。そのきっかけとなったのが、AED（自動体外式除細動器）と防犯カメラの設置である。

PROBLEM → SOLUTION（抱えていた問題と解決への道）

高齢化問題、後継者問題

商業集積の不足

中心市街地の活力低下

安全・安心のまちづくりを通して活性化へ、
中心商店街が自治区・市と共働して
地域コミュニティ強化に取り組む。

KEY WORD（活用のKEY）

自治区・市を
巻き込んでの中心市街地内
コミュニティ強化

若く、元気のある人材が
集まった組合組織

地域に目を向け、
安全・安心のまちへ



豊田市の中心である駅前から広がる西町商店街。

事例の概要

地域と一体になった商店街を目指して 中小商業活力向上補助金で安全・安心の地域コミュニティ形成

名鉄豊田市駅の南側の三本の通りをメインにした一帯、豊田市の中心部にある西町商店街は100店舗余（加盟）ある（その45%は飲食店）。30-40年ほど前までは「いわゆる昭和風な」商店街であり、専門店も多かった。20年前からの道路拡幅や再開発などにより、住宅の減少、街の人の流れが変わり、商店街は自然発生的に広域に形成され、買物を目的とした回遊の減少と商店街としての商業集積が失われてきた。また、地域に目を向けると、高齢化とともに新たな集合住宅の建設による新しい住民層の流入などもあり、地域と一体になった安全・安心なまちづくりが必要になってきた。

1 防犯カメラの設置

防犯カメラの設置は実に28台に上る。西町商店街は一本の目抜き通りではないために交差点が多く、防犯カメラは主要交差点では双方向、三方向を見渡すように街路灯上部に設置している。また、記録装置の収納ラック（通常は施錠をしている。）を街路灯の下に設置している。開示するためには鍵を所有する商店街、自治区、市の三者の立ち会いが必要という徹底した管理を行っている。設置後には駅付近での交通事故時の情報開示など、実際に利用されたケースもある。また、落書きなどいたずらの件数が減少する効果が表れている。

2 AEDの設置

AEDは、商店街の3箇所に設置している。「豊田参合館」という駅前の施設、駅近くの高架線下、西町会館、といずれも通行量の多いところである。鍵をかけずに目立つところに設置して24時間誰もが使えるという状況にしている。秋祭りの際に、駅前で倒れた市民がおり、AEDを利用して（駅前のパチンコ店に設置していたもの）一命をとりとめたという出来事があったのを契機に商店街でも補助を受けて設置した。現在さらに台数を増やすことも計画している。

3 自治区、市との連携

西町商店街では、こうした安全・安心の活動を地域の自治区と共働している点が特徴である。AEDを使用するための講習を自治区とともにするなど、これまで別々に活動していた自治区との共働は地域コミュニティの強化の大きな原動力になっている。同商店街の影響で近隣の商店街もAED設置への取組を始めた。もともと進取の気性のある組合であり、市役所や自治区と積極的に交流しながらこれらの浸透を図っている。

4 今後の課題、子供への安全・安心

安全・安心のまちづくりへに向け、西町商店街が次の課題としているのは子供への対策である。すでに愛知県商店街振興組合連合会による「こども110番」には加盟しているものの独自の対策が待たれるところである。また、西町商店街活性化計画では、地域と一体となった商店街づくりの他、商店街の通り（ストリート）ごとのテーマがある商業集積、個店の販促や情報発信の取組などを課題として商店街の活性化に取り組む計画である。



防犯カメラは三方向に設置してある地点も多い。下の機器にはレコーダーが入っている。



中心市街地内には、同商店街内数箇所を含む通行量自動計測装置が設置されている。



AED設置の例。人が集まり、24時間使える場所に置かれている。

Voice

西町商店街協同組合 理事長 奥村峰生さん

以前（6年以上前）は、ITなどで情報を外部に向けて発信して商店街を理解してもらう手法をメインにしてきましたが、原点に戻って、足元、即ち地域に理解される商店街にしていこうと方向性をさだめ、地域コミュニティの担い手となる商店街を目指しています。当時、地元や地域では高齢化や商店街の後継者不足が生じる一方で、

駅前などでは落書きや未成年が深夜に集まるなどのマナーやモラルの低下が目立っていました。地域のために、安全・安心で暮らしやすいまちづくり、三世代のコミュニティ創出を自治区とともにやり、地域力を高める必要を感じ、商店街活性化計画の内のひとつの柱としました。AEDと防犯カメラの設置は其中でも特に力を入れて実現したものです。

西町商店街では「心の豊かさ、ふれあいを感じる繁華街＝躍動感ある西町商店街」を基本方針に活性化計画を展開している。市やまちづくり会社（旧TMO）とも連携をとって、地域一帯となったパワフルな活動とユニークな取組を続けている。

商店街のPRツール

商店街をPRするユニークな取組として、ワインや果汁ジュースの販売、キャラクター展開なども行っている。



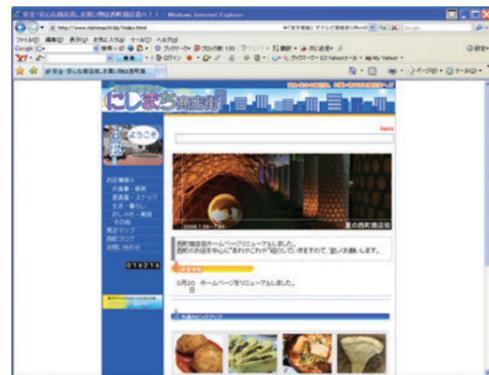
オリジナルワイン、ジュースの販売。販促グッズとしてラベルをオリジナルにして販売している。



商店街のキャラクターであるニッシーとマッチー。商店街のペナントにも使われている。



果物などをモチーフにしたかわいいうエコバッグは子供や主婦に大人気。



ホームページ <http://www.nishimachi.biz/index.html>

豊田市中心市街地の様々な情報発信をする。



<http://www.toyota-machinaka.com/>

豊田市の中心市街地活性化基本計画（一部抜粋）

西町商店街は市の中心市街地活性化基本計画においても重要な役割を果たしている。



■活力とにぎわいの創出【活力】

- ① 飲食店ストリート構築事業
- ② (仮) 豊田市駅前通り北地区市街地整備事業
- ③ (仮) 西町地区都市再生事業〔調査及び計画策定〕

■公共交通と自動車交通が調和した交通体系の実現【交通】

- ① (仮) 名鉄豊田市駅総合整備事業
- ② 新たな公共交通システム導入事業〔調査及び計画策定〕
- ③ 豊田市駅東口駅前広場整備事業〔調査及び計画策定〕

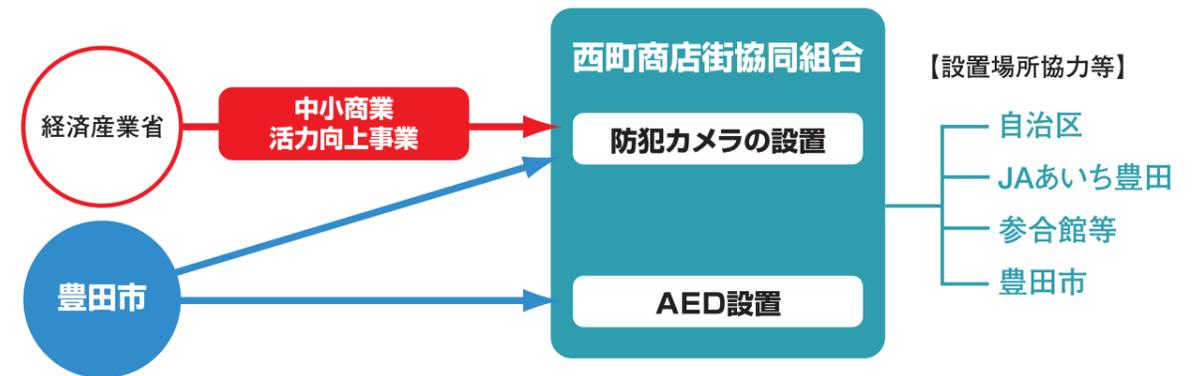
■環境を配慮したまちづくりの実践【環境】

- ① 桜城址公園再整備事業
- ② 安永川環境整備（安永流域河川環境整備事業）
- ③ 緑陰歩道リニューアル事業〔調査及び計画策定〕

スタジアムアベニュー
基本計画区域（面積：196ha）
長期ビジョン区域（面積：500ha）

資料

■ 事業の広がり支援措置の関係図



■ 事業計画及び実績報告（※可能な事例についてのみ記載）

■西町商店街協同組合商店街活性化計画の目標

- ①歩行者通行量の増加（H17年7地点調査 休日:6,907人 平日:11,338人）▶ 10%の増加
- ②西町商店街組合員数の拡大（H18年9月1日現在 98店舗）▶ 110店舗に拡大
- ③商店街組合員の駐車場利用（F.P認証数）の増加（H17年度認証数 58,749件）▶ 150%の認証数
- ④業態転換（経営革新）店舗の輩出 ▶ 5店舗を輩出する
- ⑤商店街売上拡大（H17年商店街組合員アンケート調査結果より 売上の伸び悩み構成比17.9%）▶ 15.0%（2.9%引き下げ）を目指す

■防犯カメラ、AED設置概要

【西町商店街協同組合 防犯カメラ】

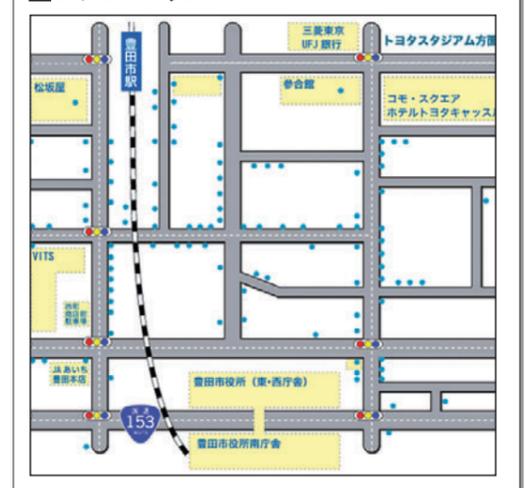
第一期工事	緑陰歩道	カメラ5台	画像記録設備2台	県・市補助事業
第二期工事	商店街事務所	カメラ3台	画像記録設備1台	市補助事業
第三期工事	商店街地域内	カメラ20台	画像記録設備7台	国・県・市補助事業

【西町商店街協同組合 AED（自動体外式除細動器）設備】

事業費	2,110,500円（税込み）※基礎工事・設置工事費込み 県・市補助事業
設置台数	3台
設置箇所	西町会館、豊田参合館、緑陰歩道

- ・屋外設置により24時間使用可能
- ・自治区等の共同でAED取り扱い講習を実施予定
- ・県補助金名：愛知県がんばる商店街推進事業費補助金
- ・市補助金名：豊田市中小企業団体等事業費補助金

■アクセスマップ



<豊田市人口：422,983人（平成21年1月1日現在）>

問い合わせ 愛知県豊田市西町2-28 TEL:0565-33-2244 西町商店街協同組合

→寺町専門店会商店街振興組合（京都府京都市）

省エネ型アーケード改修事業 歩いて魅力が発見できる
まちの実現を目指して

**「人にやさしく、歴史が生きた現代的なまちに」
歴史と伝統ある京都の名門商店街が
安全・安心のまちづくりで新たなにぎわい創出へ。**

活用できる支援措置

中小商業活力向上事業（経済産業省）

商店街振興組合等が一体となって行う、少子高齢化への対応や安全・安心なまちづくり、商店街の生産性向上等の全国的課題に対応する商業活性化の取組に対して支援を行い、商店街等ににぎわいを創出し活性化を図ることを目的とした補助事業。
（※本事例当時は「少子高齢化等対応中小商業活性化事業」（平成18年度））

商店街を取り巻く環境

寺町専門店会商店街は寺町通り御池から三条の間に60軒余りの店が連なり、商店街の中には三つの寺がある。付近には観光名所も多く、「和のエリア」としての魅力を発揮している商店街である。元々、京都の顧客の家に訪問する外商型の商店が集まっており、昭和39年頃、小売店としての商店街が形成された。創業400年を超す店舗もあり、歴史のあるオーナー型の商店がほとんどで、固定客型でもつ、いわゆる「一見さん」の客が少ない（隣接する新京極や三条・四条の商店街や買い物街とは一線を画す）商店街であり、現在もその傾向がうかがえる。

同商店街は昭和47年に法人化され、アーケード建設やカラー舗装等のハード整備に着手、平成11年から環境設計事業（カラー舗装や統一看板の作成等）を行い、「人にやさしく、歴史が生きた現代的なまちに」を商店街のコンセプトとして、歩いて魅力が発見できるまちの実現を目指す取組を行ってきた。固定客が多い商店街の特性や近辺に元々複数のデパートがある関係から、郊外型大型店の影響などは受けなかったが、顧客も店主も高齢化し、近隣住民や客の流れも変化する中で、安全・安心の商店街への転換が必要とされてきた。

PROBLEM → SOLUTION（抱えていた問題と解決への道）

- 顧客・近隣住民の高齢化
- マナー等商店街環境の変化
- 近隣商店街との連携でのにぎわい創出

**商店街が「ひとつ屋根の下」で、
歩いて魅力が発見できるまちの実現
を目指して事業展開。**

KEY WORD（活用のKEY）

- 京都の歴史・伝統ある商店街としての誇り
- 自治体、警察など一体化した啓蒙活動
- 主客たる高齢者層に向けたやさしい街づくり



落ち着いた風情のある寺町商店街。

事例の概要

**高齢化の進む商店街が少子高齢化の補助金で
歩きやすいまちづくりを実現。**

長年の顧客からは近隣と異なる「落ち着いた」感じが好まれるという寺町専門店会商店街。近年、まちなかに高層マンションが建ったり、地下鉄東西線乗り入れなどで訪れる客層も変化し、固定客も高齢化する中で、近隣の地域ともどもにぎわいをつくるための事業展開を開始した。その初手は路面舗装、アーケードの改修からであった。特にアーケードは建設後30年を経過し、開閉装置機器や上部屋根関係についての摩耗や老朽化が著しく放置すれば不測の事態も起きかねない状況にあった。

1 路面舗装は高齢者向けに

「歩きやすい」…来街者に新たな魅力を発見してもらうためには、歩くための路面の印象と歩きやすさが第一である。同商店街は車も通行できる（搬入のため午前中に制限するよう努力をしている）ため、路面の傷みがどうしても早くなる、また、かつては車がスリップしてアーケードの柱に衝突するなどの事故もあったという。落ち着いた色を用いたカラー舗装と、雨で滑らないことを意識してまず新たに舗装を施した。これはリノベーション補助金（旧・通産省）を活用した。

2 アーケードは省エネ型

続いて、とりかかったのはアーケードの改修工事である。平成18年12月アーケード改修工事が竣工した。アーケードは照度が高い省エネ型照明器具を用い、塗装はカラー舗装と調和を持たせ、日本の伝統色を基本に、明るさを強調するオフホワイトを配色して、明るさ・見栄えを格段に向上させ、観光客や高齢者に対して安全に安心して歩ける商業空間を提供した。また、放送設備も改修し、不法駐輪、自転車通行などへのマナー啓発へのアナウンスを行い安全な歩行環境を確保している。

3 モニュメントを設置する

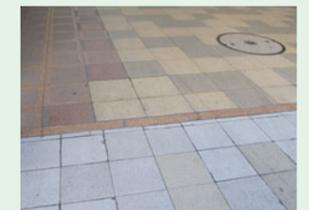
アーケードの中央部の屋根には三つの鐘を模したモニュメントが吊られており、商店街をゆく人の目を和ませている。南北両アーチの改修と合わせて、同商店街内にある三社寺（本能寺、天性寺、矢田寺）と提携して、寺町をアピールするモニュメントを設置したのだ。高さ約1mの鐘の内部にも新しい照明が取り付けられ、真ん中の鐘は放送設備を兼ね、一日4回、午前10時、正午、午後3時、午後6時に鐘の音が流れる。三つの寺が商店街にあるという環境を活かした珍しいモニュメントであり、訪れる人の目を和ませてくれる。



明るく、回遊しやすい商店街となった。



鐘を模した三基のモニュメント。各寺名が刻まれている。



舗道には高齢者に歩きやすい研磨ショット平板を使用している。

Voice

寺町専門店会商店街振興組合 理事長 石野猛さん

アーケード改修後の調査では通行量は増えています。寺町専門店会商店街ではほとんどの店が店舗に居住し、ここを生活の基盤とし、商いはもちろん日々のつきあいや各行事での協力を通じて深い親交があり、アーケードという「ひとつ屋根の下」の共同体であると言えます。だから、ここを美しく保ち、行き交う人々

に安心感を与えてあたたかくお迎えする、みんなの目が行き届いたまちづくりが大事だと思います。その大きなきっかけがアーケードの改修だったと思います。今後は、近年少しづつ出てきた空き店舗対策と、三条大橋の付近から一体の、観光需要も見据えたにぎわいづくりだと考えています。

北から入れば市役所や本能寺の境内から、南から入れば修学旅行生などで賑わう新京極から、各店舗や路面の整然としたたたずまいは商店街全体の清掃や環境維持が行き届いていることを想像させる。それでも、近年は通行客などのマナーの低下などに悩まされることも増えたという。京都らしい美しく・歩きやすい商店街にするために「寺町専門店会商店街」では多くの取組を行っている。現在、注力しているのは自転車の通行・駐輪対策である。

自転車の不法駐輪・通行対策

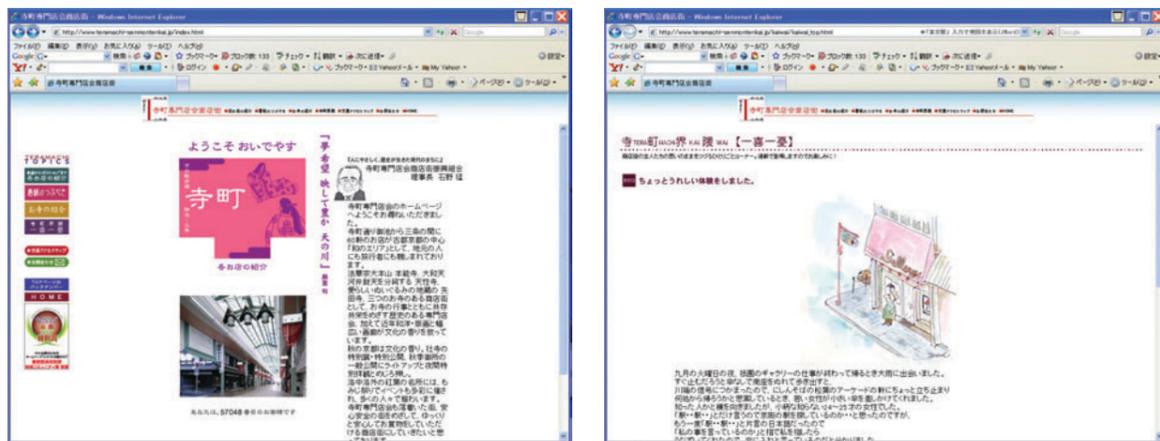
ここ数年、自転車による商店街の通行が増えたという。長時間駐輪や特定の場所への集中した駐輪は事故にもつながりやすいため、安全なまちづくりの障壁となっている。寺町専門店会商店街では、放送設備の改修により、近隣商店街、京都市、京都府警、所轄警察署と協働で行う不法駐輪、自転車通行などへのマナー啓発へのアナウンスを行い安全な歩行環境を確保するときに、近隣商店街とともに同志が出資して民間の有料駐輪場を設けるなどして対応している。



自転車へのマナー対策が活発である。 観光客などもいるため不法な駐輪は事故につながりやすい。 近隣商店街の同志で駐輪場を設けた。

寺町専門店会商店街ホームページ (http://www.teramachi-senmontenkai.jp/)

同商店街では、新たな商店街の魅力発見につながるホームページを作成、それを見て訪れるお客さんも珍しくなくなった。寺町らしい和やかさと風情がある作りで、ホームページは「中小企業のためのホームページコンテスト京都2007地域コミュニティ賞(京都商工会議所)」を受賞した。



寺町らしい、和みの空気がよく表れているサイトとして人気が高い。

資料

■ 事業の広がり支援措置の関係図

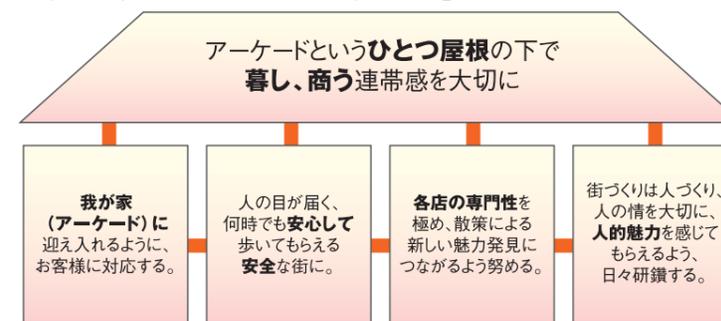


■ 事業計画及び実績報告 (※可能な事例についてのみ記載)

■ 調査地点図と各地点合計 (平成17年、19年、20年) 通行量

時間帯	平成17年調査	平成19年調査	平成20年調査
10:00~11:00	783	863	688
11:00~12:00	1,382	1,283	1,153
12:00~13:00	1,679	2,011	1,740
13:00~14:00	2,073	2,209	2,346
14:00~15:00	2,210	2,628	2,761
15:00~16:00	2,274	2,986	3,192
16:00~17:00	2,248	3,132	3,218
17:00~18:00	2,320	2,864	2,966
18:00~19:00	1,926	2,141	2,229
合計	16,895	20,117	20,293

■ 「寺町(寺町専門店会商店街)の思い」



■ アクセスマップ



<京都市人口:1,467,599人(平成20年12月1日現在)>

問い合わせ 京都市中京区寺町通三条上る大芳内 FAX:075-223-1676 寺町専門店会商店街振興組合事務所

→広島市胡町商店街振興組合（広島市中区胡町）

AEDおよび防犯カメラの設置

AED・防犯カメラなどの設置で
元気で明るい商店街へ整備

広島の中で栄える元気な商店街が、
高齢者などあらゆる来街者にも対応できる
安全・安心のまちづくりでさらなる発展へ

活用できる支援措置

中小商業活力向上事業（経済産業省）

商店街振興組合等が一体となって行う、少子高齢化への対応や安全・安心なまちづくり、商店街の生産性向上等の全国的課題に対応する商業活性化の取組に対して支援を行い、商店街等ににぎわいを創出し活性化を図ることを目的とした補助事業。
（※本事例当時は「少子高齢化等対応中小商業活性化事業」（平成18年度））

商店街を取り巻く環境

胡町商店街は、「えべっさん」の愛称で親しまれている「胡子神社」の鎮座を機に開かれ、405年余の歴史がある。広島市中心部に位置し、公共交通の便もよく、天満屋・三越・福屋の三つのデパートが軒を並べ、ユニークなお店がたくさんあることが特徴である。歓楽街にも接し、人通りは今でも昼夜を問わず絶えず、しかも、空き店舗がひとつもないという活気ある商店街である。

そんな元気な同商店街でも、平成14年頃からアーケードの老朽化が著しくなり、商店街のモットーである「明るく、元気な」というイメージへの影響に加え、防災上の懸念も生じたため、改修を計画した。同時に、少子高齢化等対応中小商業活性化事業を活用してAEDや防犯カメラを設置するとともに、ハートフルステーション、フラワーポットの設置、商店街マップの制作などの事業も実施することにより、さらなる安全・安心な明るいまちづくりをめざしている。

PROBLEM → SOLUTION（抱えていた問題と解決への道）



KEY WORD（活用のKEY）



公共交通が通り、三つのデパートも立地する広島市中心商店街である。

事例の概要

中小商業活力向上事業の支援措置を活用して 高齢者対応と商店街のイメージアップに。

旧山陽道の北側にある胡子神社の門前町として17世紀中頃が発祥となる「えびす通り商店街」は、山陽道でも最も活気があふれる商店街ともいわれる。商店街の店舗の殆どが胡子神社の氏子で連帯も強く、振興組合事務局も神社内にあるという、まさに神社とともに発展してきた商店街である。

1 胡町らしい明るいアーケードに

胡町商店街の整備はアーケードの改修から始まった。昭和37年に新設されたアーケードは、昭和60年にいったん建て替えが行われたが、老朽化が激しく、既存の柱は活用するが、その他の梁などを全面取替えることになった。アーケード改修で最も配慮したのが、照明である。「えびす通りらしく明るく元気に」見えるようなものを配した。これは、全国照明学会の賞を受賞することになり、商店街の店舗からも、買い物客からも「いつでも明るい」と大好評で、電気代も以前より安く上がる省エネタイプでもある。

3 防犯カメラの設置と、マップ作成

防犯カメラは全部で16台設置されている。（うち2台がズーム式である）。実際に治安が悪化してきたという問題はなかったが、歓楽街に隣接することもあり、安全・安心を期するためにも導入することとなった。モニターは振興組合事務局が行っている。各店舗は設置に歓迎であり、個人情報保護などの問題をクリアして設置された。すでに簡単な犯罪捜査などにも利用されるなどの実績があった（警察が利用する際にも正式な文書の提出が必要である）。また、補助金では、高齢者にもわかりやすい商店街マップも作成し、好評だ。



三つあるデパートにそれぞれ設置されたAED。



防犯カメラも16台が設置されている。



明るくなった、と評判の、アーケードの省エネ型照明。

2 AEDの設置は各デパートに

広島市の中心部にあり、老若男女を問わずいつも活況を呈する同商店街ではあるが、来街者及び店主の高齢化は否めない。そこで、AEDと防犯カメラの設置に取り組むこととなった。AEDは人の集まる場所に設置したり、それを扱える人員がいるかという問題があるが、同商店街では三つあるデパートのそれぞれに配置している。デパートにはAEDを扱える人員もおり、設置場所としてもわかりやすい。県内で商店街が設置するのは初めての例で、今後は深夜まで営業する店への配備を検討していく。

4 ハードからソフト事業テコ入れへ

少子高齢化の支援措置による事業ではその他に、フラワーポットの設置、ハートフルステーションの開催などの振興事業を行ってきた。同商店街ではアーケードの改修をはじめとするハード的な振興事業を完了し、次にソフト的な事業の推進を模索している。ユニークなものとして、新アーケードの完成を記念して、地元出身のミュージシャンによるイメージソングの制作などを行っている。胡子大祭に合わせて催される「えびす講大売出し」などイベントも多く集客力のある同商店街では、伝統を守りつつ新しいソフト事業が期待される所だ。

Voice!

広島市胡町商店街振興組合

元気で明るい、昔ながらの商店街で、固定客も多くコミュニケーションが活発であるというのが胡町商店街の特徴だと思います。アーケードの改修を始めとして、高齢化に対応した商店街事業のハード事業が一段落したため、それを機に、ソフト事業も実現してきましたが、その後はセールなどのイベント等になって

しまうので、今後は、例えば百貨店との連携によるイベントなどのソフト事業を考えていきたいと思っています。今は通行量もあり、自社経営の店舗が多く、ゆとりがある商店街だと思いますが、付近に大型ショッピングセンターができ、郊外型の大規模ショッピングセンターも目立ってきていますので、危機意識が生じています。

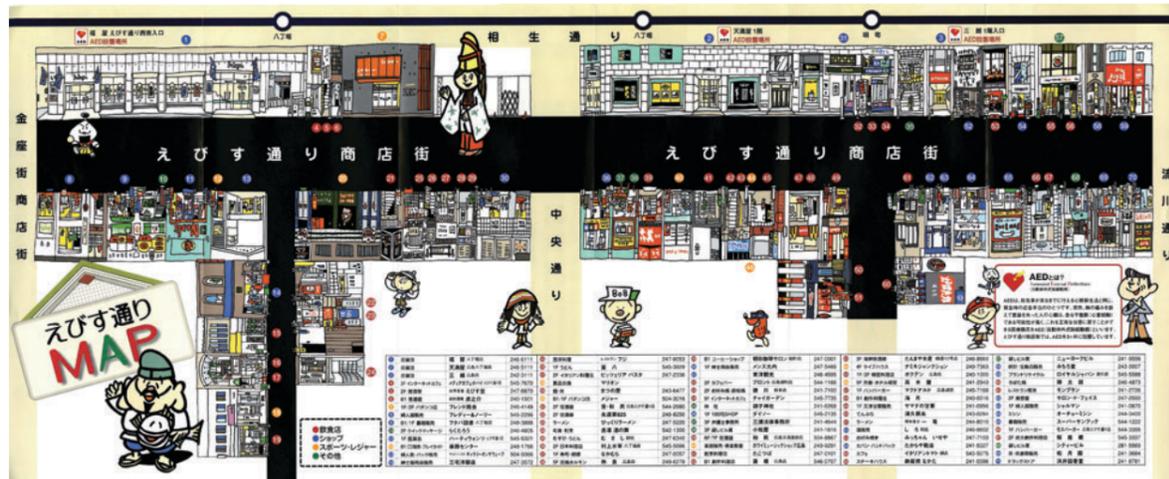
老若男女が集まる胡町商店街では、いずれの世代にもわかりやすいマップの制作やそれぞれの世代間が交流するハートフルステーションの設置があった。不法駐輪防止としてフラワーポットの設置などが行われている。

商店街マップ制作、ハートフルステーション・フラワーポットの設置



来街者の歩行の妨げになっていた不法・迷惑駐輪防止とあわせ、癒しと安らぎのある空間の提供を目指して、フラワーポットを設置。また、日常の手入れや植替えなどの維持管理について、地元の小学校や地域のボランティア団体、NPOなどを巻き込み、商店街と地元住民との交流の輪も広がっている。

アーケードの改修を期に、開催されたハートフルステーション。オープニングセールを皮切りに三ヶ月で10数回設置された。学生などの若い世代が、商店街のガイド役を務めるものがある。



個々の店舗の特徴をとりえて紹介している商店街マップ。利用者からは、わかりやすく、親しみやすいと好評である。

胡町商店街の歴史とイベント

胡子神社は1603年にえびす神を現在の地に勧請したことが創始とされる。鎮座以来、市が開かれ、芝居小屋なども出来て、胡子祭が行われ、胡町は門前町として栄えた。広島三大祭りのひとつ「胡子大祭」は30万人の人出があり、原爆被災の年もバラックの仮社殿で祭典が行われた。辛いことがあってもくじけずに明るく笑顔で、というのが胡子神社、胡町商店街のモットーになっている。「胡子大祭」の際に行う「えびす講大売出し」は胡町商店街の目玉イベントである。

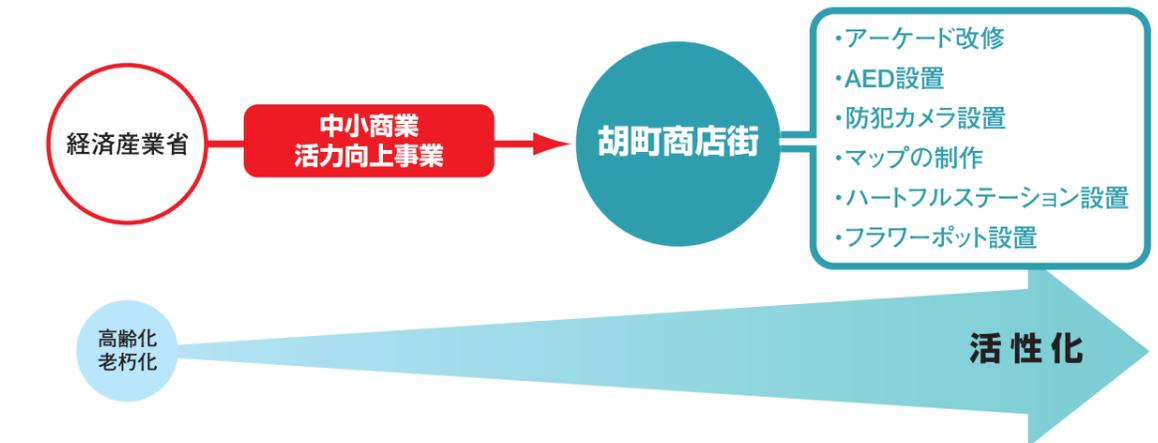


商店街の真ん中にある胡子神社。商店街の振興組合事務局もこの中にある。

「太鼓競演」イベント風景

資料

■ 事業の広がり支援措置の関係図



AEDとは… Automated External Defibrillator (自動体外式除細動器)

AEDは、救急車が来るまでに行える心肺蘇生法と同じ、緊急時の応急手当のひとつである。突然、胸の痛みを訴えて意識を失った人の心臓は、急な不整脈(心室細動)である可能性が高く、これを正常な状態に戻すことができる器具である。



■ 事業計画及び実績報告 (※可能な事例についてのみ記載)

■ えびす通り商店街イベント

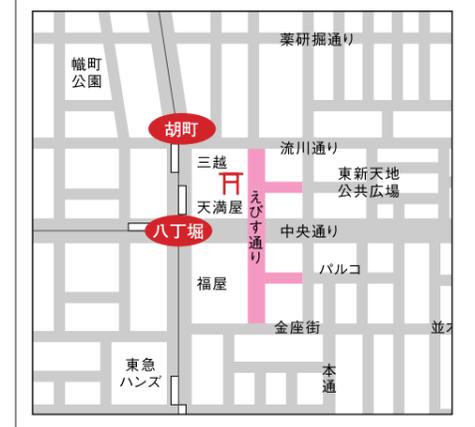
年末年始	福を呼ぶ福種銭プレゼント
1月	初売り
2月	節分豆まき(胡子神社にて)
7月	七夕祭り
8月1日~10日	サマーセール 特賞旅行招待ほか空クジなし
11月18日~20日	年に一度の誓文払 えびす講大売出し 広島三大祭 胡子大祭
12月15日~24日	福引歳末セール 特賞旅行招待ほか空クジなし

■ えびす通り商店街サポートイベント

5月	フラワーフェスティバル
8月	ゆかたでさん祭 とうろう流し
11月	えべっさん
11月~1月	ひろしまリミネーション

■ アクセスマップ

広島電鉄市内電車「八丁堀」電停、各社バス「八丁堀」バス停すぐ



<広島市人口:1,169,972人(平成20年11月30日現在)>

問い合わせ 広島市中区胡町5-14 TEL:082-241-6268 広島市胡町商店街振興組合